

【様式1】

令和7年度 授業改善推進プラン（全体）

学校名 豊島区立長崎小学校

校長名 小山 元

学校の教育目標

◎よく考え表現する子 ○みんなと仲良く分かり合う子 ○すすんで体をきたえる子

学力に関する目指す児童像

○自らの考えに根拠をもつ児童 ○自らの考えを表現する児童

授業改善推進プランの全体像

〈児童の実態〉

- 学習意欲があり、問題解決学習の調べる学習では集中して作業する子が多い。
- いずれの学年も、国語科、算数科の目標値、全国の平均を上回っている。
- △ グループや全体での話し合い活動で、自らの考えを表現することが苦手な児童がいる。
- △ 主体的に学習に取り組む態度は、目標値より低い学年や教科がある。特に理科に課題がある。



〈育てたい力〉

ア 課題を意識したり設定したりする力

イ 主体的に課題解決しようとする力

ウ コミュニケーション力

※意見交流の中で、自分の考えを広げたり深めたりする力、
相手の考えを理解しようとする力



〈豊島っ子の学びの実践〉 教師主導型から子供主体の授業の実践

めあて・課題の設定 ⇒ 対話・話し合い ⇒ まとめ・振り返り

- ・ 身に付けたい力を明確にする（めあて・課題の設定）
- ・ 自分の考えをアウトプットする。（対話） ・ 学び合う。（話し合い）
- ・ 身に付いたことを確認する。（まとめ・振り返り）

授業での ICT 活用

学習用端末（タブレット）を使用し意見交流やプレゼンソフトを活用した学習のまとめなどを行う。

授業改善推進プラン強化週間の実施

教員がお互いの授業改善についてブラッシュアップする期間を設定する。

校内研究の推進

「自己を見つめる・振り返る」ことを意識した授業実践。

基礎学習タイム・サマースクールの実施

基礎的な学力の定着を図る。

家庭学習の定着

「家庭学習」について「基礎メニュー」「チャレンジメニュー」を提示し、家庭学習の習慣化をめざす。

令和7年度 授業改善推進プラン（各教科）

I 国語科

目指す児童像を基にした国語科での育成したい資質・能力		
ア 問いをもち、毎時間のめあてや単元のめあてを設定する力 ウ 自分の考えを表現するとともに、友達と考えを共有し、自分の考えを広げる力		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	ア 問いをもつことが難しい。 ウ 自分の考えを表現することが難しい	① 授業の中で問いを児童が自ら考えるような発問を行う。 ② 既習の学習内容を授業の最初に確認する。 ① ペアトークをベースに少人数で自分の考えを表現する場を授業の中で設定する。
低	ア 問いをもつことはできるが、そこからつなげる学習のめあてや単元のめあてを設定することは難しい。 ウ 自分の考えを表現し、友達と考えを共有することが難しい。	① 教材の中で興味をもったことから、問いを見いだすことができるようにする。 ② 既習の学習内容を授業の最初に確認し、前回の学習を踏まえたり児童の振り返りを基にしたリしながら、本時のめあてや単元のめあてを設定する。 ① ペアトークをベースに少人数で自分の考えを表現する場を授業の中で設定する。 ② 自分の考えと理由を明確にしたり、友達と共有したりするための話合いの視点を提示する。
中	ア 「なぜだろう。どうしてだろう。」という問いをもつことができているが、「～についてもっと深く考えたい。」というような、学びにつながる問いを立てることができていない。 ウ 自分の考えをもつことができているが、それをすすんで伝えようとすることができていない。また、友達と考えを共有した後の、自分の考えの変容に気付くことができていない。	① 初発の感想の視点（「好きな場面はどこだったか。」「登場人物は、どのような性格だと思ったか。」「一番納得した事例はどこか。」など）を明確にし、単元のめあてにつながるような価値ある問いをもつことができるようにする。 ② 前時の板書を提示したり、児童の学習感想を共有したりし、本時のめあてにつなげていく。 ① ICT機器を活用し、自分や友達の考えを可視化できるようにし、互いの考えの共通点や相違点に気付くことができるようにする。 ② 国語科の学習過程における「共有」の際には、友達と考えを共有した後に、「共有してどうだったか。（共通点や相違点、伝え合った後に自分の考えに変容があったかという視点）」という振り返りを行う。

高	<p>ア 自分の考えをもったり筆者の主張を捉えたりすることはできるが、追求していく価値のある問いを形成することができていない。</p>	<p>① 初発の感想を書く際には、単元の指導目標に沿った視点（登場人物の人物像を捉えることが目標の場合は、「登場人物はどのような性格か。」というような視点）を提示し、それに沿った感想を書くことができるようにし、単元のめあてにつなげていく。</p> <p>② 単元の初めに問いを立てる活動の際には、「答えが一つではないもの」「みんなで考える価値のあるもの」「教科書の叙述を基に考えることができるもの」という視点を提示する。</p> <p>③ 単元計画や前時の板書を提示したり、児童の学習感想を共有したりし、本時のめあてにつなげていく。</p>
	<p>ウ 考えを積極的に伝えることはできるが、相手の考えを聞いて自分の考えを広げたり深めたりすることができない。</p>	<p>① グループでの話し合いを取り入れたり、ICT機器を活用し、自分や友達の考えを可視化できるようにしたりして、自分と友達の考えの共通点や相違点に気付かせる。</p> <p>② 「共有」の場面では、友達の考えのよいところや友達の考えを受けて、自分の考えを伝える時間を設定する。</p>

2 社会科

目指す児童像を基にした社会科での育成したい資質・能力		
<p>ア 社会的事象を通して問題を見だし、課題を設定する力。</p> <p>ウ 社会的事象についての自らの考えを基に、交流を通して考えを広げたり深めたりする力。</p>		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	<p>ア 問題を見いだすことはできるが、課題を設定する力が身に付いていない。</p>	<p>① 思考ツールを活用して、問題を分類する。自分の問いと友達の問いを比べ、考えが深まるようにする。</p>
	<p>ウ 自分の考えをもつことはできるが、考えを広げたり深めたりする力が身に付いていない。</p>	<p>① 友達の意見を聞くときの視点（疑問や発見を見付けながら聞くなど）を提示し、他者の意見をもとに「自分の考えを問い直す」機会を設ける。</p>
高	<p>ア いくつかの資料から共通点や相違点を見いだすことはできるが、追求していく価値のある問いを設定することができない。</p>	<p>① 資料から分かることだけでなく、自分が体験したことや経験したこと、既習事項などと比べながら、事実・事象と自分の考えをつなげて読み取らせる。その過程において、児童が必然的に問いをもてるような声掛けを教師が行う。</p>

	<p>ウ 社会的事象の特徴や働きなどに対して自分の考えをもつことはできるが、考えが浅いことや表現する力に課題があることから、交流を通して考えを広げたり深めたりするまでに至っていない。</p>	<p>① 社会的事象について、学んだことをもとに自分の考えを形成する時間を十分にとり、表現できるようにする。</p> <p>② ICT機器を活用して思考を可視化し、自分の考えと相手の考えを比較しながら交流するように促す。</p>
--	--	---

3 算数科

目指す児童像を基にした育成したい算数科での資質・能力		
イ 見通しをもち、筋道立てて考える力		
ウ 数学的な表現を用いて、思いや考えを伝え合う力		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	数の構成の理解に差がある。	ブロックやおはじきなどの具体物を使い、視覚的に捉えることができるようにする。
低	<p>イ かさや長さなどの量感が乏しいため、学習の見通しをもてない。</p> <p>ウ 自分の考えを言葉で表現することが難しい。</p>	<p>① 具体物や自分の体を使い体感させることで、見通しをもって学習に取り組めるようにする。</p> <p>② 具体物を使ったり、絵や図で表現したりする活動を積極的に取り入れる。そして、友達と自分の考え方を共有できるようペアやトリオの話合い活動を取り入れる。</p>
中	<p>イ 基礎的な学習内容の定着に個人差があり、筋道立てて考えることが難しい児童がいる。</p> <p>ウ 図、式、言葉などを使って、自分の考えをノートにかくことはできるが、かいたことを基に、分かりやすく相手に伝えることは難しい。</p>	<p>① 授業の始めに、その日の授業内容に関わる既習事項を振り返る時間を設定したり、自力解決のときにノートを振り返るよう促したりする。</p> <p>② ペアやグループでノートを示しながら伝え合う学習活動や、分かりやすい友達の説明を紹介し合う学習活動を取り入れる等、学び合いの場を工夫する。</p>
高	<p>イ 問題場面に既習事項がどう生かせるのかを考える力は身に付いてきた。ただ、筋道立てて考えを整理するために使えるツール(数直線、線分図、面積図、表など)を選択する力が足りない。</p>	<p>① 既習事項で生かせるものがあるかどうかを考えさせるだけでなく、結果を見通したり、方法を見通したりする時間も設定する。例えば、数量関係の性質を導き出すという目的がある場合、表を使って比べながら考えていこう(方法)」というように、数学的な見方・考え方も見通せるようにする。</p>

<p>ウ 答えは出せるが、問題解決の過程を文章と式を使って説明することが難しい。そこでの言語化や立式が整理されていないため、自分の考えと友達の考えのどこが同じで、どこが違うのかを理解しながら、考え方や定義、性質などをまとめていくことが難しい。</p>	<p>① 自分が考えたことについて、他者を意識して音声化したり、視覚化したりする活動を習慣化する。考えを交換するだけでなく、疑問に思うことは尋ねたり、分かりづらい説明については表現方法について吟味して話し合ったりして、対話を通してよりよい表現を考えることができるようにする。自力解決が終わった後は、まず、自分の考えが伝わりやすい表現になっているかを整理し、他の数値でもその方法が使えるのかどうかを確かめたり(一般化)、他の解決方法がないかを考えさせたりするよう促す。</p>
--	--

【豊島区立長崎小学校】

4 理科

目指す児童像を基にした理科での育成したい資質・能力		
<p>ア 自然の事物、現象に親しむ中で、興味・関心をもち、そこから問題を見いだす力</p> <p>ウ 予想や仮説と実験結果を基に、考えを伝え合う力</p>		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	<p>ア 自然事象の差異点や共通点に対し、興味・関心が低い。興味・関心を高めるためにも、教師主導で問題を立ててしまっている。</p> <p>ウ 実験結果から考察をする以前に、問題を見だし、予想する段階で自分の考えと根拠をもって交流することが難しい。</p>	<p>① 自然の事物、現象に親しむ経験や体験を基に、興味・関心を引き出し、児童の気付きや感想から問題を見いだすことができるようにする。</p> <p>② 予想する段階で、科学的な見方や考え方をもち、グループで交流したり、全体で共有したりする時間を確保する。</p>
高	<p>ア 教師主導で問題作りをしてしまったり、学級の一部の児童が作った問いを基に問題を立てたりすることがあり、児童が自分の力で実証可能な問題を作ることが難しい。</p> <p>ウ 結果から結論を考える過程で、子供たち一人一人が自分の予想や仮説を基に考察する力が足りない。各班の実験結果のズレや矛盾が生じた時に、どうしてそうなったのか話し合ったり、考察したりすることが難しい。</p>	<p>① 比較の考え方を働かせながら個人で問題を書かせる場面をつくる。そこから実験や観察で解明できるかどうかを基準に、班での話し合いを通して問題作りをさせていく活動を習慣付ける。</p> <p>② 整理したり、思考を促したりするノート作りを目指す。また、そこで表現された個人の考察をもとに伝え合う場をつくる。表にする、絵や図で表す、矢印を使う、色分けをするといった表現の方法とその特徴を示して、使えるものにしていく。(例えば、表は比較する際に便利であり、図や表は視覚的に構成や全体像をとらえやすい。矢印は変容を表すときに便利であるという特徴をもつ</p>

		ている。)
--	--	-------

5 生活科

目指す児童像を基にした生活科での育成したい資質・能力		
ア 思いや願いをもって、身近な人々、社会及び自然等と関わる中で、課題を見付ける力 ウ 調べて分かったことやまとめたことを伝え合う力		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	ア 身近な人々、社会及び自然等と関わる中で、課題を見付けることが難しい。 ウ 分かったことを伝えることが難しい。	① 課題の見付け方を例示しながら指導していく。気づき、そこから課題をどのように見付けるのか、段階的に指導する。 ② 分かったことを伝える際に、(1)自分で練習する(2)ペアで伝える(3)小グループで伝えるというように、段階的に分かったことを伝える場を設定する。
低	ア 思いや願いをもって、課題を見付けることが難しい。 ウ 調べて分かったことやまとめたことを伝えることが難しい。	① 思いや願いをもてるように、校外活動を多く設定し、課題を見付けやすくする。 ② 調べて分かったことやまとめたことが伝えやすくなるようなワークシートを作成し、伝えやすくする。

6 音楽科

目指す児童像を基にした音楽科での育成したい資質・能力		
ア 曲想と音楽の構造などとの関わりに気づき、どんな表現にしたいか思いや意図をもつ力。 ウ 友達と協働しながら、音楽表現の工夫について伝え合ったり、表現したりする力。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	ア 語彙力に乏しく曲想を言葉で表現することが難しい。 ウ 音色に興味をもったり、音楽に合わせて自由に動いたりすることができる児童が多い。	① 感じ取ったことや気付いたことを児童から聞き出し、視覚化する。 ② 旋律やリズムの働きが生み出すよさや面白さを感じ取れるよう、多くの楽器に触れさせたり、創作活動を取り入れ表現力を高めたりする。
中	ア どのように表現を工夫するかについて、既習の学習と結び付けて考えることができない。	① 毎時間の振り返りの共有方法を工夫する。 ② 音楽を形づくっている要素について音楽的な効果を体感することができるような身体を動かす活動や常時活動を充実させる。

	ウ 音楽表現の工夫について友達と意見が分かれたときに、よりよい表現にまとめることができない。	① 協働する意味や理由を伝え、友達と交流しながら音楽表現をしていくよさや楽しさを感じられるようにする。
高	ア どのように表現を工夫するかについて、曲想や音楽の構造と結びつけて思いをもつことができない。 ウ 技能の工夫について伝え合うことはできるが、協働して曲想や音楽の構造と結びつけた表現をつくっていく力が足りない。	① 曲想や音楽の構造について、一人1台端末で気付いたことを意見交流することで、様々な考えに触れることができるようにする。 ② 曲想と音楽の構造との関わりについて、シンキングツールを用いて整理する。 ③ 先に表現の工夫について話し合い、それを実践するために必要な技能について考えるようにする。

7 図画工作科

【豊島区立長崎小学校】

目指す児童像を基にした図画工作科での育成したい資質・能力		
イ 表したい思いをもち、創造的につくったり表したりする力		
ウ 表したことや感じたことを伝え合う力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	ウ 自分の作品のよさや工夫について友達に伝えたり、友達の作品のよさを見つけて伝えたりすることが難しい児童が多い。	ウ 自分の作品を振り返り伝える活動や友達の作品を鑑賞し、感想を伝える活動を増やしていく。
中	イ 表したい思いやイメージをもてずに活動が停滞してしまう児童がいる。 ウ 自他の作品のよさを感じ取り、造形的な特徴や見方を広げることが難しい児童がいる。	イ 児童が表したことを明確にもてるように題材の導入で児童とのやりとりから考えや思いを引き出し、整理して見通しがもてるようにする。 ウ 毎時間、授業の中で自然とよい工夫やよさに気付くような視点を提示し、他の表現について関心をもち、感じとったことを自然と言葉にできるような学習環境をつくる。
高	イ 自己実現に向けて表したい思いをはっきりともてず、主題を設定できなかったり、工夫せずに諦めてしまったりするところがある。 ウ 表しつつあるものや作品から造形的なよさを感じ取ったり、伝えたりする力が乏しい児童がいる。	イ 表したい思いを明確にもつために、試す時間を多くもったりワークシートを活用したりしながら思いや考えを整理してより表現したいものが具体化できるようにする。 ウ 造形的な見方が深まるような具体的な声掛けをし、見方に気づくようにする。個々の造形的なよさを伝え合う鑑賞の時間を授業の中でもち、交流から見方が深まるようにする。

8 家庭科

目指す児童像を基にした家庭科での育成したい資質・能力		
ア 日常生活の中から問題を見いだして、課題を設定する力。 イ 課題に対して、様々な解決方法を考え、実践したことを評価・改善する力		
学年	現在の状況	改善のための取組
高	ア 日常生活の中から問題を見いだす力に差がある。	① 自分がどのように生活したいか、自分だけでなく家族や地域の人々にとってよりよい生活とはどのようなものなのかなど、多角的な視点で考えさせる。 ② ペアやグループでの話し合いを取り入れ、多様な考えを出すことができるようにする。
	イ よりよい方法を判断・決定することに課題がある。	① 自身の生活や経験と結び付けて考えさせたり、体験的な学習を通して気付かせたり、タブレット端末を活用して多様な思いや考えに触れさせたりする。

9 体育科

目指す児童像を基にした体育科での育成したい資質・能力		
イ 自ら課題を見付け、その解決に向けて考え、行動する力 ウ 友達と意見を伝え合いながら運動に取り組む力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	イ 自己の課題を認識することが困難。	① 何が課題か教師が助言する。または、タブレット端末で自分の動きを撮影し、確認する活動を設定することで、自己の課題に気付くことができるようにする。
	ウ 基本的な運動技能に大きな個人差があるため、意見の伝え合いにならない。	① 友達と教え合う活動を積極的に取り入れ、コミュニケーション能力を育成する。
中	イ 自己の課題を意識して取り組むことができない。	① 全体のめあてだけでなく、児童自身でも個人のめあてを設定する時間を設ける。
	ウ 適切なアドバイスを伝え合うことが難しい。	① ペアやトリオで互いにアドバイスをし合う時間を設定する。 ② 「どのような視点で友達の動きを見るとよいか」を全体に提示した上で、友達へのアドバイスの内容を全体で価値付けていく。
高	イ 毎時間、自分の課題を意識して取り組むことができない。	① 学習カードやタブレット端末を活用し、めあてを設定させる。また、振り返りの時間を充実し、

	<p>ウ 運動技能に差があるため、自己や仲間のよさ、課題を伝え合いながら活動することが難しい。</p>	<p>「今日できたこと、次に取り組みたいこと」を意識するよう助言する。</p> <p>① 器械運動系では、ペアやグループでの学習を取り入れ、技のポイントを伝え合う時間を確保する。ボール運動系では、チームで作戦を考える時間を確保したり、よい動きをしているチームを全体で取り上げたりする。技のポイント・見るポイントを可視化する。領域によって類似グループや異質グループで使い分ける。</p>
--	--	---

【豊島区立長崎小学校】

10 英語活動・外国語活動・外国語科

目指す児童像を基にした外国語科等での育成したい資質・能力		
ウ 外国語を聞いたり話したりして、主体的に自分の考えや気持ちを伝え合う力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	ウ 楽しみながら授業に取り組んでいるが、英語を使ってコミュニケーションをとることは難しい。	① 簡単な単語を使ってコミュニケーションをとれるようにするために、チャンツなどで繰り返し聞いたり使ったりする場を設ける。
中	ウ 英語を使って自分の考えや気持ちを主体的に伝えることに苦手意識をもつ児童がいる。	<p>① ジェスチャーや絵を使って「伝える楽しさ」を体感できるようにする。</p> <p>② 答えやすい質問とモデルを提示し、安心感がもてるようにする。</p>
高	ウ Small Talk が、高学年で行う活動として位置付けられているが、既習表現が十分に理解されていないことや、対話の続け方の指導が十分にされていないことが原因で、会話のラリーが難しい。	① 対話を続けるための基本的な表現を指導する。「初めの挨拶」「繰り返し」「一言感想」「確かめ」「さらに質問」「終わりの挨拶」の一連の流れを、5年生では、教師と児童が、6年生では児童同士ができるように指導する。

11 特別の教科 道徳

目指す児童像を基にした道徳科での育成したい資質・能力		
イ これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、考えを深める力		
ウ 道徳的価値についての自分の考えを基に、伝え合う力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	<p>イ 生活体験の差から人物の気持ちを考えられない教材がある。</p> <p>ウ 相手の思いや考えを受け止めることは難しいが、自分の考えを伝えることはできる。</p>	<p>① 教師が身近な日常生活のことに置き換える。</p> <p>② 多様な考えがあることが道徳のおもしろさであることを伝えていく。また、児童からの発言内容を板書の中で分類し多様な考えが視覚的に分</p>

		かるようにする。
中	<p>イ ねらいとする内容項目について、自分事として捉え実生活と結び付けて考えることに課題がある。</p> <p>ウ 自分の考えや思いを伝えようとする意欲は高いが、友達の考えを聞いて自分の考えを広げたり深めたりするには至っていない。</p>	<p>① 実生活と関わらせて考えることができるよう、事前にアンケートをとる。</p> <p>② 特別活動や生活指導と関わらせるなど、導入や終末の指導を工夫する。</p> <p>① ペアやグループでの学習活動、ICTの活用など、話合いの場を工夫する。</p> <p>② 授業の振り返りの視点に、「友達の考えを聞いてどう感じたか」という内容の項目を取り入れる。</p>
高	<p>イ 自分自身の体験から、自分の考え方や感じ方について深く考えることができない。</p> <p>ウ 自分の思いをすすんで伝えることはできるが、他者の思いや考えを受け止めながら対話するには至っていない。</p>	<p>① 自分の正直な考え方や感じ方を表現できるように、発問の仕方や導入を工夫したり、アンケートを事前にとったりする。</p> <p>② 授業の前と後とでの、道徳的価値への理解の変容が分かるような振り返りを行う。</p> <p>① 話合いの工夫をし、討議形式、ペアやグループでの話合いを取り入れる。</p> <p>② 多様な考えを受け入れる姿勢、話の聞き方を提示する。問い返しを行い、相手の考えを引き出したり整理したりすることを習慣化する。</p>

1.2 総合的な学習の時間

目指す児童像を基にした総合的な学習の時間での育成したい資質・能力		
ア 実社会や実生活から問いを見だし、課題を設定する力		
ウ 互いのよさを生かしながら、協働的に取り組む力		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	<p>ア 問いを立てることはできるが、課題を設定する力が身に付いていない。</p> <p>ウ 他者と協働して取り組むことはできるが、互いのよさに気付く力が身に付いていない。</p>	<p>① 興味や関心を引き出すための活動・体験や、写真・動画・実物などの素材を使った導入を行う。</p> <p>② 様々な思考ツールを活用して、問いから課題を設定する経験を積み重ねる。</p> <p>① 振り返りの際に、他者と協働することのよさや課題に気付くよう視点を提示し、次の活動につなげる。</p> <p>② 互いの役割を意識した活動を取り入れ、自分のことだけでなく相手の役割も尊重する経験を積む機会をもつ。</p>

高	<p>ア 児童にとって切実感がもちにくい課題設定が多く、意欲的な探究活動につながっていかない。</p>	<p>① これまでの児童の考えと学習対象の間にある「ずれ」を感じさせる場面を設定する。(現状と理想とのギャップや、理想に近づくことへの憧れ、可能性、難しさ、当たり前とっていたことが当たり前ではないことに気付くなど。)それをゲストティーチャーの活用や体験活動の導入、資料の活用、自分と友達との考えを比較する活動などによって、自分の考えとの「ずれ」を意図的に作り出していく。そこから追究する意欲を駆り立てて、自分ごとにさせていく。</p>
	<p>ウ 力を合わせたり、交流したりする場面を設定することで、力を合わせて取り組むことの大切さや地域の社会活動に参画し地域社会に貢献する喜びなどを実感できる。しかしながら、単元の中にそのような活動が十分に確保されていない。</p>	<p>① グループで学習活動を進める場面や、地域の人や専門家など校外の人と交流する場面、友達や専門家からの助言や地域の大人からの励ましを受ける場面などをつくる。</p>

1.3 特別活動

【豊島区立長崎小学校】

目指す児童像を基にした特別活動での育成したい資質・能力		
<p>ア 学級や学校での生活をよりよくするための課題を見いだす力</p> <p>イ 友達の意見をよく聞き、自分の意見と比べ合ったり多様な意見のよさを生かしたりし、課題を解決する力</p>		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	<p>ア よりよい生活の状態が何かが分かっていない。</p> <p>イ 友達の意見をよく聞くことができない。</p>	<p>① 学級や学校での生活についての振り返りを、週目標の振り返りを活用しながら、適宜行う。</p> <p>① 話の聞き方を例示し、最後まで聞くことに重点を置いて指導する。</p>
中	<p>ア 学級をよりよくしようとするための課題を見いだそうとする姿が見られない。</p>	<p>① 学級会において、朝の時間等に全員が議題カードを記入する時間を設定する。その際は、教師主導ではなく、司会グループから提案するよう促す。</p> <p>② 議題カードの書き方やどのような議題例があるのかを提示する。</p>

	<p>イ 話し合いの中で、少数の意見を大切にしながら、合意形成を図ることができていない。</p>	<p>① 心配意見（反対意見）が出た際には、改善策を考えていくよう促す。</p> <p>② 合意形成のための視点（合体意見【A案+B案】など）を提示する。</p>
高	<p>ア 現状に満足していて、自分たちで学校をよりよくしていきたいという思いがもてていない。</p> <p>イ 提案者の思いに寄り添いながら、出された意見の背景にある思いを聞き合うことができない。</p>	<p>① 児童の日々のつぶやきや週ごとの振り返りから、議題になりそうなものは促す。（議題提案カードに書くことも促す。）問題が見付けられるようにするために、「見付け方のヒント」「望ましい議題の条件」「多様な議題例」などを示す。それをもとに視点別に色分けした議題提案カードを用意する。</p> <p>① 出された意見をしっかり理解できるように、質問したり、確認したりするよう促す。そこに込められた思いを確認することが、合意形成を目指す話し合いの基礎になるということに気付くことができるようにする。（例：〇〇さんの考えをもう一度教えてください。〇〇さんの意見は～ということではいいですか。など。）</p>

1.4 交流及び共同学習の進捗状況

学年	現在の状況	改善のための取組
低	朝学習・朝の会や、学年で行う行事などで交流を行った。	特別支援学級の児童と交流することが、通常の学級の児童にとって当たり前となる、物的・人的環境を整備する。
中	学年全体で行う学習（活動）と、朝学習、朝の会に参加した。3年生は、学期末のお楽しみ会に参加した。	お楽しみ会を一緒に楽しむなど、自然に会話が生まれる活動を行っていく。今年度は3年生で先行して行い、改善点を次年度の交流計画に反映させる。
高	朝学習や朝の会（週3日）、移動教室、校外学習で交流及び共同学習を行っている。一緒に活動に参加しているが、話かけてもらうことが多く、自分から考えを伝えたり、意見を交流したりすることはできない。	通常の学級に参加するだけでなく、特別支援学級の学級活動や音楽の時間に通常の学級の児童を招待する。そこで、五組の児童が主になり、話しかけたり、意見を交流したりする中でコミュニケーション力を高める。